

令和元年度第1回社会教育委員会議会議録

開催日	令和元年6月25日(火)			開会時間	14時00分	
会 場	市役所5階 503会議室			閉会時間	16時10分	
委員の 出欠状況	小林 榮	出	片山 義久	出	久米 隼	出
	山口 真司	出	高田 陽子	欠	板垣 隆夫	出
	小田原 紀慧子	欠	本橋 ふみ	欠	佐々木 麻由子	出
	鳥飼 八五良	欠	伊藤 芳夫	出		
	○村山 喜三江	出	南條 有希子	出		
	◎石山 貴宣	出	石原 規子	出	◎議長 ○副議長	
傍聴者	なし					
事務局	【教育委員会】 結城教育部長 【生涯学習課】 茂呂課長、岩瀬主査、西生涯学習推進員 【スポーツ青少年課 】 田中課長					
議 題	(1) 平成30年度事業報告について(資料2) ア 生涯学習事業について イ 文化財保護事業について ウ スポーツ振興事業について エ 青少年担当事業について (2) 平成30年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について (資料1)(資料4) (3) 令和元年度事業計画について(資料2) ア 生涯学習事業について イ 文化財保護事業について ウ スポーツ振興事業について エ 青少年担当事業について (4) 令和元年度社会教育関係団体への補助金交付案について(資料3) (5) 社会教育推進に関する意見交換について(資料5) テーマ「地域社会へ参加できない人にどのようにアプローチをしていったらよい か」について					

1 開会

2 あいさつ

○結城教育部長

みなさん、こんにちは。本日は、教育長が所用のため不在でございます。自己紹介を兼ねまして、ご挨拶を申し上げます。

令和元年度第1回の社会教育委員会議にお集まりいただき、ありがとうございます。

また、日頃、委員の皆様には、社会教育委員として、また、それぞれの団体の構成員として、家庭・学校・地域をつなぐ役割を担っていただきまして、ありがとうございます。

ご存知のとおり、社会教育は、学校教育と異なり、個人の要望や社会の要請にこたえる必要があるなど、人々の学習ニーズに即した幅広い学習内容を持つものです。

この多岐にわたる和光市の社会教育を、皆様方、お一人お一人に支えられておりますことを改めて感謝申し上げます。

本日は、「令和元年度和光市教育行政の基本目標と重点施策」について、また、平成30年度社会教育事業の実績と、令和元年度の予定をご報告させていただき、その後、委員の皆様からご意見等を賜りたいと存じます。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員及び職員自己紹介

・和光市立大和中学校 山口 真司 委員

○事務局

市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開、傍聴者の紹介、欠席者報告、資料の確認と説明

4 議題

○議長(議事進行)

本日の会議は、不開示情報の審議を予定しておりませんので、公開とします。それでは、議題に移ります。議題がスムーズに進行するよう委員の皆様のご協力をいただき進行してまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

議題(1)～(3)については、関連性がありますので、まとめて事務局から説明をお願いします。

なお、議題(1)～(4)につきましては、事前に質問票のご提出を依頼されておりますので、後半の議論の時間を確保するためにも質問時間は割愛させていただきます。ご質問のある方は後程、直接事務局にお聞きください。なお、事前に提出のあった質問については、事務局の説明の中でお答えしていただきますのでよろしくお願いいたします。

○事務局

議題(1)平成30年度事業報告について(資料2及びスクリーン使用)

ア 生涯学習事業について(生涯学習課長)

事前質問である「わこうっこクラブ」、「市民大学参加者の推移」、「図書館サポーター設置の成果と課題」、「社会教育分野におけるSDGs」について説明

イ 文化財保護事業について(生涯学習課長)

ウ スポーツ振興事業について(スポーツ青少年課長)

エ 青少年担当事業について(スポーツ青少年課長)

議題(2) 平成30年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について(資料1)

前年度の変更点と事前質問である「教育支援センターの役割」、「和光市不登校対策委員会について」、「開かれた学校づくりの推進」「特別支援教育の充実」「子どもの遊び」について生涯学習課長が説明。学校教育課主管事業については、学校教育課回答を生涯学習課長が読み上げる。

議題(3) 令和元年度事業計画について(資料2)

ア 生涯学習事業について(生涯学習課長)

イ 文化財保護事業について(生涯学習課長)

ウ スポーツ振興事業について(スポーツ青少年課長)

エ 青少年担当事業について(スポーツ青少年課長)

○議長(議事進行)

ただ今、事務局から説明が終わりました。続きまして、議題(4)「令和元年度社会教育関係団体への補助金交付案」について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

議題(4)「令和元年度社会教育関係団体への補助金交付案」について資料3に基づいて生涯学習課長、スポーツ青少年課長より説明

○議長(議事進行)

ただ今、事務局から説明が終わりました。何かご意見はありますでしょうか。

それでは、事務局には事務を進めていただきます。

次に、議題(5)「社会教育推進に関する意見交換」について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

本日お配りした資料4、5をご覧ください。今年3月の社会教育委員会議において、協議のテーマを「地域社会へ参加できない人にどのようにアプローチをしていったらよいのか」とし、シニア世代の社会参加についてに絞って3つの視点からご審議をいただきました。

(1)「地域にかかわりたい」という気持ちを行動に移すための後押しをする方法や
きっかけがつかめない人へのはたらきかけで効果的な方策

(2)「地域に関わりたい」という気持ちを醸成するための「今日的つながり」

(3)「きっかけをつかめない人に主体的に参加を促すための機会づくりや活動支援」

という視点でした。

市としても日頃から地域とのつながりが希薄化する現代社会において「家族の絆」や「人とのつながり」の必要性を再認識しております。「地域社会へ参加できない人にどのようにアプローチをしていったらいいのか」ですが、市のさまざまな事業や地域社会に参加することが難しい人をどのように巻き込んでいくかはとても重要な課題であります。

今回の協議では、前回の会議でお示ししましたとおり、「若い世代の社会参加についてご審議をいただきたいと思います。

和光市の特徴としまして、20歳以上45歳未満の若い世代が多くなっています。和光市の人口約82,000人のうち28,500人が該当し、約35%となっており、この世代の方々が人口の3分の1を占めていることとなります。また、転出入も多く、和光市へ転入してきた方やこれまで地域社会とのかかわりが少なかった方が、子育てを通して、また、きっかけとして、地域社会への関心を深め、積極的に関わっていただくことは地域の力を高めていくことにつながり、地域の将来にとってもたいへん重要であると考えています。

本日の会議では、「これまで地域社会への参加経験はないが、子育てをきっかけとして、子育てをとおして地域での人間関係を深め地域社会に参加しようとする方」に焦点を当て、前回と同様の視点からご審議をいただきたいと思います。

また、「参加する側の立場」・逆に「受け入れる側の立場」からのご意見、また、団体に所属されている方は、それぞれの団体で地域の方に参加・ご協力していただくために工夫されていることなど、皆様からのご経験からのお話をしていただければと思います。

今回の会議で、委員の皆様の任期の区切りとなりますので、前回の会議でご審議いただきました「シニア世代の社会参加」と今回ご審議いただきます「若い世代の社会参加」につきましてご意見としてまとめていきたいと考えております。

そして、取りまとめまた皆様からのご意見は、公民館などの社会教育事業を実施していく上で、活用させていただき、また、状況により、福祉部門等へ情報提供したいと考えております。

さらに、公民館運営審議会や図書館協議会などに報告をさせていただくことを予定しております。

○議長(議事進行)

事務局から説明が終わりました。それでは、早速、今回のテーマ「地域社会へ参加できない人にどのようにアプローチをしていったらよいのか～若い世代の社会参加～」について、協議を始めさせていただきます。

それでは、お手元の資料4、資料5をご覧ください。

初めに、(1)「子育てをとおして地域に関わりたい」という方々へのはたらきかけで効果的な方策について、情報発信、手段、仕組み等について、委員のみなさまにご意見をいただきます。

核家族化、共働き世帯の増加が進行しております。子育てについて誰かに相談したい、近所に話ができる人がほしいと考える方も多くいらっしゃると思われます。このようなお気持ちをお持ちの方へ各組織や団体でどのような取組をされているかなどご意見やご紹介をお願いします。

それでは、よろしければ、挙手、お名前をおっしゃっていただき、ご発言をお願いいたします。

○南條委員

わこう子育てネットワークでは、赤ちゃんを連れていても何気ない話ができる、友だちができる、おやこ広場（もくれんハウス）を設けています。この場でのつながりを生かして、顔見知りを増やしていただいています。孤独であることからまず脱出していただきます。おやこ広場（もくれんハウス）の利用者は、イベントを手伝ってくれたり、次の活動に参加してくれたりします。手芸が得意な方が、ボランティアとして教えてくださることもあります。子育てをしながらでも、自分の得意なことを発揮できるという場をできる限り用意して、積極的に関わっていただくようにしています。

まず、はじめは、高齢者であっても若者であっても顔をつなぐ、お話をする場をつくる、居場所をつくるのが大事なのではないでしょうか。

子育てを中心として考えるのであれば、子連れで行っていい、子連れがむしろいいという意識を培い、子連れの人どうしが交流できる雰囲気に参加者がつくっていくことが、この世代が出席しやすい、参加しやすいという一番の入口ではないかと考えています。

○石原委員

子ども教室に関わって10年ほど、コーディネーターとして活動してきました。子ども教室をサポートしてくださる方の事情も変わり、人を集めることの難しさを感じます。指導者やサポーターが大変少なくなってきました。社会が変わってくると、このような活動にも影響があると思います。

私は、祖父母の世代となるので、若いお母さん方と直接のつながりはありません。娘をとおしたネットワークづくりを紹介します。娘は、おやこ広場（もくれんハウス）にもお世話になりました。娘の様子を見ていますと、若いお母さんたちは、盛んに交流をされています。お互いを深く知るにつれ、育休中の時間を何かに使えないだろうかというつぶやきも私の耳に入ってきました。そこで、育休中の時間を有効に使って、活動できるものを探していただくようにしました。今は手のかかる子どもも、あっと

いう間に大きくなっていきます。今のうちにいろいろな活動に取り組んでいただくことが、若いお母さんたちの将来のつながりや活動の広がりになると思い、「子ども教室」で、コンサートを開いていただくようにしました。おなか大きい方や赤ちゃん連れの方が小学校で演奏してくれました。安心して参加していただくよう言葉かけにも配慮しました。

近い将来、社会や会社に戻られる方、転職される方もいらっしゃることでしょう。しかし、自分が最初に活動に取り組んだという自負は、次のお母さん方に活動をつなぐ力となります。お母さん方は賢く、意欲的です。活動に向かう気持ちを育ててあげることが私たちの役割だと思っています。

そのためには、学校、担当者、地域、そして市が同じ目線を持って、アクションを起こすことがポイントではないでしょうか。

○片山委員

ある程度の強すぎないくらいの強制力がはたらいた方が、活動のきっかけづくりになると思います。PTAも昨今は任意加入ということが言われています。これまでは、学校へ入ったらPTAにも入るというものでしたが、県からも任意加入という流れを伝えられています。

あまり気が進まずにPTA役員を受けたする方もいらっしゃるのですが、一年後に感想をうかがってみると、大変だったけれどやってよかったという方が多くいます。その後も委員を務めてくださったり、中学校でPTAの役員さんを引き受けてくださったりすることもあります。役員など怖くてできませんとおっしゃる方もおられますので、何らかのきっかけがあったほうがよいのではないかと思います。

○議長(議事進行)

ありがとうございました。現在、組織・団体等で行っている活動を紹介していただきました。

地域での子育て世代の関係づくりにも情報発信、手立て、仕組み等が重要であることや、組織や団体等のHP、広報誌やポスター等の紙媒体も効果的であるというご意見をいただきました。

また、情報交流ツールで子育て世代がネットワークを広げているというご紹介もありました。時代に相応しい有効な手段であると思います。

子育て世代の参加を促すためのきっかけとして、学校などの役割も重要であることを確認いたしました。さまざまな関わりをとおして周りの方々との人間関係が醸成されてまいります。シニア世代の場合と同様、周りの方々が積極的に関わり続けることが大切であることをまとめていただきました。

○議長(議事進行)

続いて、(2)「子育てをとおして、地域に関わりたい」という気持ちを醸成するための、「今日的つながり」についてご意見をいただきたいと思います。

子育てが生活の中心となっている方々の地域との「今日的つながり」について委員の皆様のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○伊藤委員

各自治会での単一事業はやりにくくなっています。和光市は、急成長、急開発に伴い人口も急増しています。年代も多種多様ですが、自治会への加入率は非常に低い状況です。住民登録されていない方もいらっしゃいます。

地域ではお祭りや芋ほり、餅つき、手芸教室、社会科見学などのご案内をしていますが、反応は芳しくありません。

各学校区で地区社会福祉協議会での取組を進めています。お年寄りから乳幼児全ての方に声かけをしていますが、世代格差、見解の相違、市民としての認知の低さを感じられます。動きがとりにくいと思っています。

昔から住んでいる者にとっては、向こう三軒両隣というのは当たり前のことでした。市内では、学期初めにあいさつ運動を進めていますが、私の地区では365日ずっと地域で取組んでいます。新しく和光に来た方々へも、その関わりを常に求めているのですが、拒否されてしまうこともあります。多くの地域活動を進めています。喜んでいただいているものもありますが、活動についての根本的なご理解をいただいていないことが残念でなりません。

自治会のさまざまな組織を活かして必要と思われる方の見守りも続けていますが、お申し出がない限り踏み込めないので、難しい問題だと考えています。

○村山委員

体育協会の仕事を中心となっており、地域の方となかなか交流できないことを歯がゆく思っています。わたしは、今年度より開設された「白子小学校わこうっこクラブ」のお手伝いをしています。仲間を集うため声をかけてみましたが、子育てが終わった方は仕事を始めている。仕事が終わった方は、自由な時間を大切にしたいからとおっしゃる。がっかりしました。

体育協会では、事業に参加する子どもたちにあいさつをしようと呼びかけます。受付の様子を見ていると、保護者が先にやってきて子どもを預けていくことがあります。まず、保護者が必要なことを話し出してしまうので、子どもに声かけができないことがあります。そんな時にも、あいさつの大切さを保護者に伝えます。子どもを預けて、仕事に戻る保護者もいます。保護者の多忙さがうかがえます。子どもたちにも、保護者にも、高齢者にも、出会える立場であるので、何か一緒にやっていけるものがないだろうかと常に自分でも問いかけをしています。

自治会活動との接点が少なかったのも、自治会を中心とした活動に踏み込むことに

はためらいがありますが、きっかけをつくることは大切だと思っています。勇気を振り絞って声をかけたり、きっかけづくりをしたりして、みなさんとお話をしながら、少しでも地域に出ていただければと思います。

○小林委員

20代から40代の学校職員の多くは毎日遅くまで仕事をしていて、土日にも出勤している場合があります。現実には、市民としての時間がないという状況なのではないかと思います。自治会の様子を紹介していただきましたが、市民として暮らしている時間ということを考えると相当に制約されていると思います。積極性がないのではなく、できないという状態ではないでしょうか。

一方で、子育てをきっかけとして地域の活動に関わる方もいらっしゃるでしょう。つまり、子育てをされている人は市民として地域社会に関わりが持てるきっかけやチャンスがあるのではないかなと思います。

しかし、同じ世代でも、結婚していない方や子どもがいないという方になると、地域社会に関わりをもつきっかけがつかみにくい、つかめないというところもあるのではないかと思います。

20歳代、30歳代、40歳代の方々にとって、地域社会との関わり合いの時間がとれないというのが現実だと思います。

○村山委員

子育てが終わって社会復帰したり、会社に行かれたりした後、戻ってきて活動することは難しいと思います。地域に貢献することよりも、自分の生活が大変なのだろうと思われる方をみかけることがたくさんあります。以前、培った力を生かして、再び参加していただく方法や状況を教えていただけますか。

○石原委員

和光市はとってもいいところと聞きます。子育て世代の友だちも増え、会話も弾む。子どもの話題から始まって、互いに打ち解け合うようになる。自分がかつて取組んだことを紹介したり、経歴を話したりする。母親になるということは共通のスタートに立つということでもあるわけです。自分の力でつながりを築く方をはぐくむ和光市であるといえます。

家族の協力を得ながら、先ほど紹介した活動のための準備、練習をしたり、活動中に互いの健康や事情を推し量りながら声をかけ合ったりしてつながりを深めていきます。

手を差し伸べるのではなく、意欲のある人に何かやってみようという場を与える、アイデアを出す、これが私たちの役割だと考えます。

若い世代は、ネットワークを広げることも上手です。私たちの時代とは、スピード

が違います。若い人たちを信じて、できる時にやってみようというオープンハートをオープンマインドを持っていれば、若い人たちは上手につながっていくものです。適切なサポーターが必要だと思います。

○村山委員

そのレベルに持っていくためにどのようにお手伝いしたらよいかを考えながら、お聞きしていました。ここにいらっしゃる方々も、それぞれの環境があります。私自身が気がつかない部分があるのだと思うと思いますが、もう少しアンテナを高くして、積極的な関わりをすることが大切だと思います。

活動をご遠慮された方には、別のアプローチを考える。例えば、友だちを紹介していただくことで社会参加を待っている方に出会えるかもしれません。私自身ができる協力の仕方を勉強していきたいと思います。

○石原委員

私も今まで、うまくいかなかったことがたくさんあります。しかし、先ほどお話ししましたが、「まかぬ種は生えぬ」。わたしたちは、常に若い人たちにもアプローチしていくという姿勢を持っていればよいのだと思います。

○議長（議事進行）

地域の状況や仕事との関係により難しい事例も紹介していただきましたが、子育て世代への積極的な声かけが重要であることが確認されました。子育て世代はきっかけがつかめると積極的に交流し、より深いつながりを結んでいく傾向があることを指摘していただきました。

○小林委員

「子は地域のかすがい」という感じがします。子どもの交流をきっかけとして地域のつながりを深めていく活動は大事ですし、貴重です。市にも応援していただきたいと思います。

繰り返しになりますが、若い世代でも子どものいない方や仕事に恵まれていない方もいらっしゃいます。また、「中高年のひきこもり」などが社会問題になっています。地域社会との縁がない、つながりがない、このような方々への積極的なアプローチも必要だと思います。

一方、市民体育館の開館時間は、午後１１時と伺いました。仕事を終えて利用される方も多いきいています。このなかで、サークル活動への発展も考えられるでしょう。公共施設を使用しやすいように考えることも大切ではないでしょうか。

○板垣委員

私たちが、私たちの子ども世代にどう関与していくかという観点から考えていきたいと思います。

われわれの世代は、リタイヤしている人も多くいます。この方々の役割は、ひとつは孫の世話です。父母の介護が中心となっている方もいます。ボランティアをやりたくても、なかなか時間がとれない状況です。

孫の世話は特に重要で、共働き世帯の後ろ盾になっています。経験を生かして、精神的にも若い世代を支えています。われわれの世代がサポートしていくことが大切なのです。

われわれ世代の知識や経験値を子育て世代の方々のために活かしていくということも大切です。例えば、工学の知識がある方は、子ども教室などで講師を務めることもできます。間接的にですが、若い世代のために役立てると思います。子育て世代をサポートしていけるとと思います。

○山口委員

人材バンクというシステムがある町があります。和光市でも同じようなものがあるのでしたら、これを活用して、お手伝いしたい方とお手伝いしていただきたい方のマッチングをされるとよいと思います。自分が役に立ちたいというお気持ちを持っている方の好意を活かしていただくことも大切です。私の勤務する学校でも、学校応援団の方々に多くの場面で支えていただいています。

学校では、手助けを求めている家庭もあるように思います。しかし、なかなか声をあげることが難しいのでしょうか。今日的なつながりという視点では、つながりをつける場を意図的に設定することが大切だと思います。少しでも関わり合いを持つことができると新しいチャンスも生まれてきます。できる限りニーズを集約する方策も考えたいものです。

○伊藤委員

「市民意識調査」が本日の資料に記されています。これによると、地域の出来事に関心がない、あまり関心がないという回答が80%を超えています。

このことに対して行政はどのような対応をとろうというお考えですか。朝霞地区では、転入された方に各地区の自治会や老人会、子どもに関する施設等の案内をしている市があります。自治会加入率も高いと聞いています。行政のはたらきは大きいと感じます。自治会連合会としてお願いもしてきています。

○石山委員

市役所の転入届出窓口では、関係各課からの情報資料が転入者に適宜配布されているようですが、詳細につきましては、担当課等に確認が必要かと思います。

○伊藤委員

ここ数年間は、そのような状況にないとお聞きしています。現在、市では、地区社協の取組を進めています。地区社協では、高齢者、要援護者、子育て等さまざまな方を対象とした取組を考えています。この活動を推進させていくためには、住民意識の高揚を図ることも必要ではないでしょうか。市として、どのような施策をお考えなのか。

○事務局（生涯学習課長）

資料としてお示ししております「市民意識調査」は第四次総合振興計画策定の際の基礎資料でございます。現在、第五次総合振興計画の策定にむけて取り組む予定でございますので、市民意識も変わってきていることが想定されます。委員のみなさまには、新しい調査結果を後ほどご確認いただきたいと思います。

○議長（議事進行）

子育て世代の「今日的つながり」のために、前半は、相手の立場や経験を踏まえ、積極的にアプローチしていくのが重要であるご提言いただきました。また、後半は、子育て世代を支援する世代のサポート策やつながりをつける場を意図的に設定するというご意見をいただきました。

放課後児童の居場所づくり事業のひとつである「子ども教室」や各学校が組織する「学校応援団」などで子育て世代やそれをサポートする世代が顔見知りとなることも地域での「今日的つながり」を深めることとなります。委員のみなさまには、各団体・組織でもお力添えをお願いいたします。市は、市民ニーズを的確に把握し、事業に活かしていくようにしてください。

それでは、「(3)きっかけがつかめない人に主体的に参加を促すための機会づくりや活動支援」について話し合いを始めます。

○南條委員

子育てネットワークでは、自分が大変だ、とにかく孤独で誰かとつながりたいと思っている方への支援を進めています。転入された方のなかには、地域に知り合いが全くいないというところからスタートされる方も多くいらっしゃいます。孤独や引きこもり、精神的な不安定さにつながっていく状況も見られます。この状況から、どのように脱出していただくかという点に気を付けています。

保健士の戸別訪問に合わせて、ちらしを配っていただいたり、地域でのサポート紹介をしていただくようお願いしています。ひとり一人にご案内し、個別のサポートにつなげていきます。虐待や孤独が社会問題となっていますので、各組織・団体の対応についてお考えをおきかせください。

○議長（議事進行）

高齢者の方の介護等に関しては各地域に地域包括支援センターがあり、相談受付を24時間体制で応じていただけると聞いています。きっかけがつかめない人への機会づくりや活動支援について、ご意見はありませんか。

○石原委員

機会づくりや活動支援のためには、それを求めている方の情報が必要だと思います。個人情報保護されるようになってから、少しずつハードルが高くなってきて、お声がけしにくくなってきています。

以前は、隣近所の情報が比較的容易に入ってきていましたので、きっかけがつかめられないと思われる方にもお声かけができました。民生委員の方、福祉に携わる方の役割も大きくなってきたのではないのでしょうか。解決の糸口も簡単には見つかりません。

若い世代は、個人情報を守りながらも情報を得たり、発信したりすることが得意だと感じます。ただ、ひきこもりの方、孤立した子育てをされているしてらっしゃる方は、SOSも発信できないのでしょうか。私たちができるレベルを超えている方々には、市がしっかりと対応していただきたいと思います。

○伊藤委員

私の住む地域にも支援を要する方がたくさんいるようですが、自治会の役員に情報が入ってくることはありません。長く住んでいらっしゃる方や親御さんとのおつきあいはあっても、該当される方とは面識がない。市などから問い合わせをいただいてもお答えに窮することばかりです。地域で一緒にくらしているのですから、できる限り一緒に活動したいと思うのですが、なかなかうまくいきません。

市には、関係者を導くことを通して、機会づくりや活動支援をしていただきたいと思います。

○事務局（生涯学習課長）

個人情報を保護しながらも、みなさまに機会づくりや活動支援を進めていただけるように進めております。

例えば、生涯学習指導者の紹介は、市へ登録いただいた方の情報を公開し、みなさまの要望とのマッチングを図っております。

福祉分野では、お子さんを預かる側と預ける側のマッチングを図るファミリーサポート事業を展開しております。また、お子さまの子育て支援をするホームスタート事業もごさいます。

個人情報を保護しつつ、マッチングを進める事業が軌道にのりつつあります。市だからこそできる事業はますます重要になってまいります。ニーズを的確に把握し、教育と福祉の連携をいっそう図りながら進めてまいります。

○片山委員

日本語がわからないために社会参画できない方もいらっしゃいます。日本語がわからない保護者の場合、地域のイベントも把握できません。近年、地域のルールを知らないためにトラブルに発展するニュースもお聞きします。地域によっては、いくつかの言語でルールを知らせる取組も進んでいます。

子育て世代の方にも該当される方がいます。通訳サポーターを活用した取組を進めている NPO もあります。今後も外国籍の方は増えていくことでしょう。コミュニケーションがとりにくい方への活動支援には、必要な視点だと思います。

○山口委員

教育と福祉の連携は重要です。学校にも多くの課題がありますが、教育の視点だけでは解決に至らない、改善が難しいという問題があります。

市の担当課や他の行政機関には、保護者の生活支援や児童生徒の家庭環境の改善等にご協力いただいています。ありがたいことです。保護者のなかには、生活や子育ての悩みを相談できない方もいらっしゃいます。ソーシャル・スクール・ワーカーの活躍により機会づくりを進んでいますが、全市対応は難しいことです。民生委員さんもいらっしゃいますが、より気軽に相談できる窓口があるとつながりもつけやすいと思います。

○議長(議事進行)

「(3)きっかけがつかめない人に主体的に参加を促すための機会づくりや活動支援」についてご意見をいただきました。

個人情報保護により、きっかけをつかめない方を把握する方法が難しくなっています。市の取組にも期待が寄せられていますが、ひとり一人への声かけの機会を重要なきっかけづくりと改めてとらえることや言語に対する配慮についてご提言をいただきました。教育と福祉の連携を一層図り、子育て世代の悩みを軽減し、子どもたちがよりよい家庭環境で生活、学習できるよう努めていきたいものです。

○板垣委員

本日の会議について、意見と要望を申し上げます。

まず、事業報告と計画について説明をいただきましたが、承認事項か否かは説明を始める前にお知らせいただきたいと思います。

次に、質問に対する回答は文書でもお示しいただきたいと思います。事業報告と計画について事前に送付し、質問をとられました。非常によいことだと思いますが、質問に対する回答を的確に把握するためにも、ぜひお願いしたいと思います。

また、資料にはページ番号を記し、資料を明確に示しながら説明をしていただきました。

いと思います。

意見交換会自体は非常によいことであり、充実したものでした。案内には、若い世代について議論するというのが示されていたので準備をしてきました。しかし、「子育て世代」と極めて限定されたテーマをいただいたので戸惑いました。

さきほどのお話にもあったひきこもりの問題などは、まさに今、社会的にも焦点となっています。極めて限定されたテーマでの話し合いとなったのは、残念でした。

また、話し合いの視点である(1)～(3)の区分にも工夫をしてください。

○事務局（生涯学習課長）

申し訳ございません。会議時間の関係もあり、説明が早口となってしまいました。委員がおっしゃるように回答は書面提示も必要であったと感じております。

また、ページ記入がなかったことにつきましてもお詫び申し上げます。

意見交換につきましては、前回の話し合いを踏襲しておりますが、事前に詳細までお知らせできずに申し訳なく思っております。今後の会議運営に生かしてまいります。

○議長（議事進行）

本日が最終会議となります。前回の話し合いと併せて、とりまとめをしたいと思いますが、内容が多岐に渡っておりますので、難しいと思います。

○事務局（生涯学習課長）

たくさんのご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。この後、前回の話し合いと併せてまとめてまいります。事務局で整理、検討させていただくお時間をいただけますようお願いいたします。委員のみなさまには、後日、本日の会議録（案）ととりまとめ（案）をご提示申し上げますので、確認をお願いいたします。

○議長（議事進行）

事務局よりとりまとめについて提案がありました。いかがでしょうか。

それでは、よろしくお願いいたします。

議題(1)から(4)については、ご承認いただきました。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

つたない進行で誠に迷惑をおかけいたしました。みなさま方のご協力を賜りまして、終了させていただくことができました。本日は、お忙しいなか、ご参加賜りましてありがとうございます。

○事務局

本日はお忙しい中、長時間に渡りましてご意見等を頂きまして誠にありがとうございます。

今回の会議の中で皆様からいただきましたご意見につきましては、今後の社会教育関連事業の推進に反映できるよう努力して参りたいと思いますので、今後とも社会教育行政にご尽力賜りますようお願いいたします。

また、今回をもちまして皆様の2年間の任期中の会議は終了いたします。この2年間、ご意見をいただきまして、ありがとうございました。

本日ご審議いただきました会議の議事録と取りまとめにつきましては、後日郵送にて調整の依頼をさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。